

大事だよ「森のゴキブリ」

城陽市立
久世保育園

教授来園、縄文の杜探検

「せんせい、これ何？」「お、すごいの見つけたなあ」―城陽市の久世神社境内に18日、この森に魅せられた大学教授が京都市からやって来て、近くの保育園児に、森に住む虫や植物の名前、つぎ合い方などを教え

た。この日、やって来たのは京都精華大学教授で、京都自然教室の事務局長もしている板倉理事長。発電所オープン時に、保育園を訪れた際、隣接する久世神社の境内に魅せられた。境内地とあって、ほとんど手付かずのままの縄文時代から続く自然が残っていた。聞けば、毎日ほど園児が遊んでいるという。そこで園児と共に、自然観察に訪れることになったもの。

この日、森にやって来たのは4歳児、5歳児79人。落ち葉のクツ

ションをジャンプしながら園児は、小高い丘を目指した。アブラゼミの抜け殻からカブトムシの死骸など、次々に板倉教授の所へ持参。「これ何」「食べられへんの」と質問ラッシュ。誰かが「森のゴキブリ」を見つけた。「落ち葉を食べて、きれい

にしてくれる自然にとても大切なゴキブリ」と聞いた園児は、「ふん」とげんごう。真赤な冬いちごを園児が発見。「おいしいよ」と板倉教授の勧めに、園児らもモグモグ。「せんせい、おいしかった」と歓声。ほかにも強烈な臭気ので、ハエを呼び繁殖するスツボンダケなど、珍しい森の生き物観察教室はいつまでもにぎやいだ。

【藤本博】



久世神社の森で遊ぶ板倉教授と園児ら